



フリーターって、どうなの？ 考えたことがありますか・・・

※厚生労働省委託事業 高校生就職ガイダンス資料より抜粋

一生で稼げるお金は正社員よりかなり少ない

正社員の場合、長く勤めれば仕事の責任が増していき収入も増えることが期待できますが、フリーターの場合は、仕事の内容(責任)に大きな変化がないため大きく収入が増えることは難しいでしょう。

すべての人がこのモデルケースに当てはまるわけではありませんが、一般的な傾向では正社員とフリーターでは収入にかなりの差があります。その差は年齢とともに大きくなり数十年間の総収入を考えると一億円以上も差が出ると試算されています。

年齢が高くなると正社員になるのは難しくなる

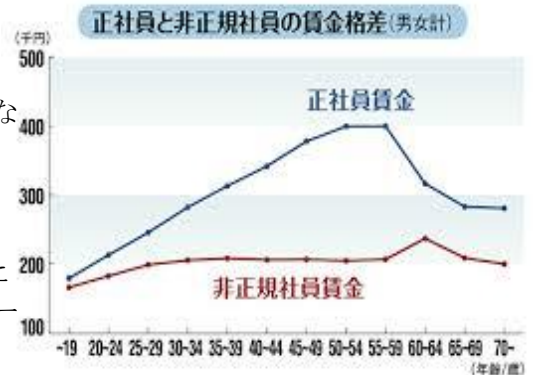
フリーターとして働き続けていた人の多くが25歳頃を境に将来に不安を抱いて正社員としての就職を希望し始めるそうです。企業は長くフリーターだった人を採用する場合に、懸念を感じることも否めません。とくにフリーター経験しかなく年齢の高い人は「年齢に見合った仕事経験がない」と考えられてしまうため、就職が難しくなります。

つまり、フリーター期間が長くなると「望んでも正社員への転職が難しい」というリスクも高くなるのです。

頑張っているけど社会的に評価されにくい

例えば、ひとり暮らしをしたくてもアパートを借りられないかもしれない、クレジットカードが作れないかもしれない。「フリーターは収入が安定しないから」という理由で不利になることが世の中にはたくさんあります。

仮に休みも取らずにアルバイトを続けて多くの給料をもらっていたとしても、仕事(収入)の安定性などを考えると、残念ながらフリーターは社会的な信頼性を得にくいというリスクが存在するのです。



厚生労働省令和5年賃金構造基本統計調査

3年生 就職ガイダンスを実施しました

7月24日(水)に3年生就職希望者50名を対象にした就職ガイダンスを実施しました。午前は就職活動の心構えとマナーなどを学び、午後は面接体験をしました。講師の方からは、「ガイダンスに臨む姿勢が大変立派だった」とお褒めの言葉をいただきました。就職試験までは1か月を切りました。今回のガイダンスで学んだことを活かしながら準備に取り組んでいきましょう。

主な内容としては、①「コミュニケーションの基本を学ぶ」では、相手を思いやり、いつも笑顔で人と接すること。②「社会と仕事を知る」では、仕事や社会のことを良く知っておけば、就職活動を恐れなくても大丈夫ということ。③「グループワーク」では、会社づくりゲームにチャレンジし、採用側の視点から、どういう人材を求めているかなどを学びました。

面接体験では「高校生活で頑張ってきたことは何ですか」などの質問に対して、一人一人が自分の考えを答えるものでした。自己表現することの難しさを痛感したのではないのでしょうか。



午後からの面接体験の様子

2年生 インターンシップ職種希望調査の結果です

2年生は12月4日(水)～6日(金)までの3日間、一関市内及び平泉町内でのインターンシップを実施することになっています。夏休み前には自分自身の将来を見据え、職種の希望を出してもらいました。

その希望をもとに、進路指導担当の先生方が70社以上の企業に受け入れのお願いをしていますが、受け入れ人数には制限もあるため、第2希望への変更をお願いしなければならない生徒も出てしまいそうです。

本校と企業との信頼関係がしっかりとできており、卒業生の皆さんも頑張っていることでインターンシップが実施できるということも忘れないうで下さい。

～ 第1希望の職種状況 ～

製造3名 販売【スーパー】2名 販売【スーパー以外】10名 ホテル14名 介護3名
 保育20名 病院15名 理美容7名 放送報道3名 事務6名 整備4名 建築6名
 建設土木3名 消防5名 自衛隊7名 市役所6名

